



TITLE:

八月の天

AUTHOR(S):

---

CITATION:

八月の天. 天界 1927, 7(77): 329-330

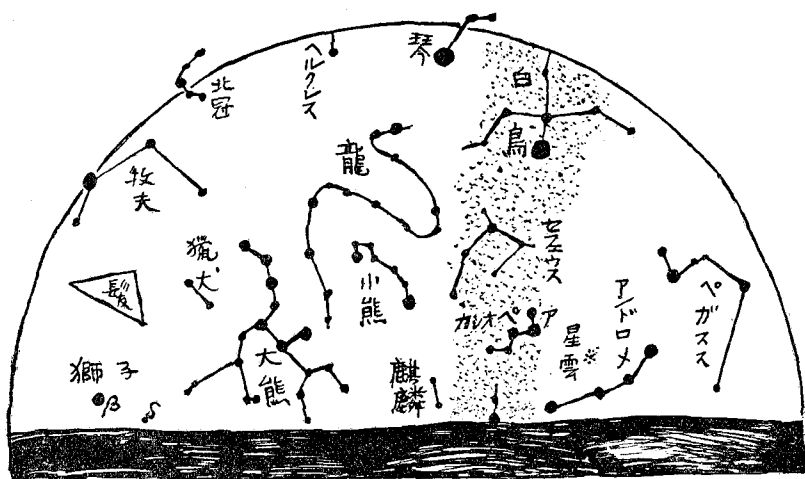
ISSUE DATE:

1927-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161137>

RIGHT:



八月の北天

八月はほぼ舊暦の七月に當り、日没後の天頂には七夕の織女星が純白の明るい光を放ち、天の河を越えて對岸には牽牛星が輝やいてゐる。南天には射手座の不思議な姿が、西に向つて逃げ行く蝸座を追ひ、其れを入れ交つて東からは山羊、水瓶、ペガス等が登つて来る。北天の極星の上部には龍座が全身を現はし、其の西には大熊、東にはカシオペアのW形が著しい。夏の天は世の總て人を星に誘ふものであり、従つて、上述の星座は世界到る所、一般社會人に親しみが深い。特に天の河の壯觀は他の何ものにも例へ難い。セフェ座から白鳥座あたりは天の河の深みを見せる部分であり、蛟遣ひ座から射手座あたりは、又、天の河の複雑な構造を見せる部分である。試みに双眼鏡か、又ちセンチ級の望遠鏡でも好いから、其れを蝸座と射手座との境目あたりに向けて覗いて見るが宜い。星雲や星團の見事なものか相ひ重なり、大小の變光星や、二重星三重星などが數知れずころがつてゐる。

